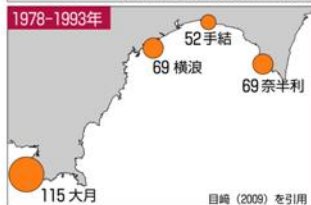
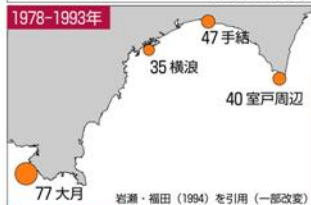


造礁サンゴの分布拡大と種の変遷

黒潮の影響を強く受けている高知の海には昔から造礁サンゴが豊富にみられますが、近年の海の温暖化に伴い、サンゴの分布はさらに拡大し、種の構成も大きく変化しています。

■出現種数の増加と熱帯種の北上



高知県におけるサンゴの出現種数の変化
(数字は種数を表す)

高知県における広域的な造礁サンゴの分布状況に関する記録は、1931年、1978-1993年、2004-2008年のものがあります。調査地点の位置や調査精度は多少異なりますが、各地点の出現種数はいずれも増加傾向にあり、高知の海には以前より多くの種類のサンゴが生息するようになっています。高知県のような温帯域では冬季の水温低下により、サンゴが死んでしまうことがありますが、近年では冬季の海水温が上昇したため、昔よりサンゴが越冬しやすい環境になっています。これが既存の種の分布拡大や新たな熱帯種の進出に繋がっているものと考えられます。

1993年以降に県内で新たに見つかった種の一部



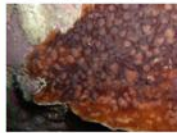
キクハナガサミドリシ



コブミドリシ



スゲミドリシ



ハワイセンベイサンゴ



チダミセンベイサンゴ

これらのサンゴの多くはこれまで種子島以南に分布するとされてきました。熱帯種の北上と分布拡大は黒潮の影響の大きい県西部で顕著で、ここにあげた5種はすべて大月町で確認されたものです。

■枝状ミドリシ群落の変化

高知県に生息している枝状ミドリシのうち、大きな群落をつくる種は2種類います。一つは温帯域に多いエダミドリシで、もう一つはより南方系の種とされるスギノキミドリシです。スギノキミドリシは元々、高知県には少なく、1993年の記録では県西部の大月町でのみ生息が確認されています。しかし、2008年の調査では高知県のほぼ全域で観察され、大規模な群落もみられるようになりました。一方、エダミドリシは現在でもほぼ全域に分布していますが、昔と比べて量

が大きく減少しています。特に県西部の大月町ではエダミドリシの大きな群落が全くみられなくなっており、その他の海域でも枝状ミドリシ群落の多くがスギノキミドリシ優占となっています。



▲ 近年、衰退傾向のエダミドリシ
スギノキミドリシの大群落 ▶

